

自治医科大学附属さいたま医療センター 卒後臨床研修プログラム

GUIDE 2018

「専門医研修プログラム対応」

Postgraduate Clinical Training Program



自治医科大学附属さいたま医療センター

センター長の挨拶



自治医科大学附属さいたま医療センター長

百村 伸一

自治医科大学附属さいたま医療センターは東京に隣接した人口120万余の“さいたま市”にあり、さいたま市およびその周辺を含む埼玉県中央部における中核医療施設として市民病院的な役割を担っているとともに、大学病院としての高度専門医療の提供も重要な責務としています。平成元年に許可病床数200床の病院として自治医科大学附属大宮医療センターの名称で開設されましたが、平成13年に旧大宮市、浦和市、与野市が合併し平成17年には旧岩槻市も加わりさいたま市になったことから、当センターも平成19年7月にさいたま医療センターに改名いたしました。

当初は地域医療を支える自治医科大学の卒業生による総合診療の基幹病院としての役割と地元大宮市（当時）が切望していた急性期循環器疾患に対する高度先進医療の提供を中心としておりましたが、年々、循環器以外の領域についても最先端の高度医療の提供を求められるようになり、毎年のように増床を重ねて現在では許可病床数も608床となり、全ての専門分野において高度医療を提供する施設となりました。しかし、設立の目的の1つである総合医診療の実践と総合医の育成についての努力も脈々と続いており、大学病院では経験することの少ない所謂Common Diseaseの診療も決しておろそかにすることはなく、また一方では、大学病院として一般の市中病院では診られない稀有な疾患や最先端の技術を駆使した高度医療を必要とする症例に至るまでの多彩な疾患の診療に当たっております。

このように当センターが一般市民病院と大学病院の特徴を併せ持ち、極めて豊富な症例に対応していることは、専門医志向の医師からは必ずしも歓迎されない面もあり、また、病院経営としても非効率的と言わざるを得ないところも多々あります。しかし、病気はある特定の臓器の部分的な障害であることはむしろ稀であり、医師本来の役割としては例え専門医であっても患者の多様な訴えに対して基本的な対応はできなければならないことは言うまでもありません。また一方で、基本的な対応だけでは事足りず高度医療を必要とする場合も少なくなく、当センターのように広い裾野と幾つもの高い峰を抱える病院は、臨床研修という面でも稀有な価値を持つと確信しております。

自治医科大学はへき地などの地域医療に貢献する医師を育成する医科大学です。従って、本学卒業生は地域医療で活躍しておりますが、当センターの指導医の中にはそのような地域医療を長年経験してきた本学卒業生が多数おります。これらの医師達による理屈や理想論に留まらない実地経験に基づいた筋金入りの総合診療の指導が受けられるということも当センターでの臨床研修として特筆されます。これらの利点・特徴を生かして当センターでは現在の臨床研修制度義務化（平成16年施行）が始まる前の当センター開設当初よりスーパーローテーションによる初期臨床研修を行ってきました。同時に、大学病院としての高度先進医療においてもその充実に努め、開院当初より我が国でも屈指の技術と症例数により世に知られるようになった虚血性心疾患の診療にとどまらず、現在では、血液疾患の骨髄移植治療、耳鼻咽喉科の鼓室形成術、肝胆膵外科手術、肺がん手術、子宮内膜症の治療など、多くの分野で埼玉県下はもとより全国的にも高い評価を得るに至っております。また、平成22年度には地域周産期母子医療センターに認定され、平成26年度からは地域がん診療連携拠点病院の指定を受けるとともに、新たに精神科、救急科を標榜するなど全ての専門領域において充実した体制が整えられています。

このように、当センターでの研修は長年の地域医療の経験に基づいた総合医療の基盤に立つ指導とそれに続く高度専門医療の研修を可能にしていることなど多くの特徴をもつと自負していますが、中でもそれぞれの専門領域で第一線に立つ専門医たちが、自治医科大学の建学の精神に基づいて、総合診療の重要性を理解してそれぞれの専門領域という壁を立てずに研修の指導に当たっているということが最も大きな特徴と言えるでしょう。また、さらに良質な研修を提供できるように、ワシントン州立大学内科名誉教授のFujimoto客員教授や前カルフォルニア大学ロスアンゼルス校外科教授のLefor教授による米国流研修の直接指導を受ける機会を設けるなど、意欲のある若い医師の期待に応える研修体制の改善に努力を続けております。多くの有能な研修医（レジデント）の参加を期待しております。



一般プログラム・ホスピタリスト重視プログラム責任者

卒後臨床研修室長 菅原 斉



自治医科大学附属さいたま医療センターは開院以来、総合医養成を主眼としたプログラムを全国でもいち早く取り入れて今日まで来ました。一般プログラムの詳細はプログラム説明にありますように総合内科医、内科系専門医、外科専門医、外科系専門診療科医、救急専門医養成に対応できるよう弾力性のあるプログラムとなっています。また、2010年から、たすき掛けプログラム導入により、柔軟かつ切れ目のない内科研修が可能となるようホスピタリスト重視プログラムを新設しました。当センターは病床数608床、外来患者数1日1,200人以上が通院する大学病院であります。common diseaseから先端医療まで含めた臨床研修が可能な埼玉県の中核的病院です。各診療科間の垣根が低いことから気軽に他科へのコンサルテーションができ職員間のコミュニケーションもスムーズであります。レジデントから各科教授へのコンサルテーションも抵抗なくできるというのがレジデントの感想で、当センター研修の特徴の一つとなっています。このようにレジデントは効率良く各診療科専門医や指導医からの直接的指導を受けることができます。また、研修指導は屋根瓦方式を遵守することで軽微な内容から高度な指導まで可能となるきめ細かな指導体制をとっています。厚労省が提唱する初期臨床研修期間中に経験すべき症例は無論のことレジデントが希望する研修内容を個別に取り入れ柔軟に対応できるプログラムを用意していますので充実した臨床研修ができます。

私どもはこの豊富な症例数と優秀な指導体制を基盤として各レジデントの皆さんの将来へのキャリアプランを支援いたします。総合内科専門医をはじめ、プライマリケア医、ホスピタリスト、家庭医、各専門診療科専門医、基礎・臨床研究医などあらゆるキャリアアップのための機会を提供します。大学院への進学を含めた進路指導も卒後臨床研修室はバックアップします。本初期研修プログラムは3年目以降の内科系・外科系後期研修プログラムとも連動していますので、最短期間での各科専門医の取得が可能です。当センターでは総合医と専門医の融合を目指し、将来の地域医療医としての必要不可欠な初期研修教育を全職員の協力のもと支援します。

オリエンテーション時にはシミュレーター実習やICLS講習会を取り入れその後の病棟における臨床研修への円滑な移行ができるよう工夫しています。地域医療研修では訪問診療やへき地医療を経験でき、プライマリケア研修や外来研修も可能です。救命救急センターでの救急研修では救急車来院件数1日20件以上におよぶ救急研修を経験できます。毎月2回実施されている研修医特別講義により実践的な知識を習得することができます。当センターの初期研修医は全国から集まるのが特徴ですが、様々な情報を各研修医間で共有し研修プログラムの改善へ向けて卒後臨床研修室との意見交換を通じて常に研修内容の改定を検討しています。指導医の陣容に関しても豊富な経験と業績をもつ教授・准教授スタッフ等の教職員がそろっており皆さんの研修を支援します。

小児科プログラム責任者

教授 市橋 光



プログラムの目標として子どもの総合医療、小児救急医療、新生児医療を実践できる十分な診療能力を備えることとしています。

特徴としては、

1) 小児救急医療と新生児医療の研修の重視

小児救急や新生児では臓器別ではなく、さまざまな臓器疾患の小児救急医療、新生児医療を行なわねばなりません。このため1つの臓器に偏ることなく、幅広い知識が必要となります。

現在、さいたま市小児救急医療の2次救急指定病院として週に2回の輪番業務を行なっています。レジデントは指導医とともに当直を行なっていますが、この当直は小児救急医療の研修としてきわめて有用です。また、小児病棟の他、NICUを含む新生児病棟を有し、充実した新生児医療の研修ができます。

2) 超音波検査の実践

超音波検査は被曝がなく非侵襲的であり、小児領域では第一選択となるべき画像診断法です。しかし、多くの大学病院や小児病院では、専門スタッフが検査を担当しているため、レジデント自らが検査に従事して手技を学ぶ機会は少ないです。当センター小児科では最新の超音波診断装置を6台有し、上級医の適切な指導を受けながらレジデント自らが超音波検査を行なっています。

産婦人科プログラム責任者

教授(学内教授) 桑田 知之



自治医科大学附属さいたま医療センター産婦人科プログラムは、婦人科疾患を扱う「産婦人科」と、産科疾患を扱う「周産期科」の2科で構成されています。「周産期科」は「産科」と「新生児科」、「小児外科」で構成され、多くを学ぶことができます。産婦人科プログラムの指導者は、婦人科担当の教授1名、産科担当の教授2名を中心に、数多くの疾患を経験したスタッフで組織され、懇切丁寧に、一人一人の研修医のペースにあわせながら指導しています。

埼玉県は人口比で全国一産婦人科医師数が少ない県として知られており、多くの産婦人科医師を必要としています。このため、必要医師数よりも患者数の方が多く、豊富な症例を研修医のうちに経験し、研修終了後は即戦力として活躍することができます。当センター産婦人科プログラムの特徴として以下の3項目が挙げられます。プログラムの最終目標として、産科学、婦人科学のいずれにも偏ることなく、産婦人科医療を実践するための十分な診療能力を身につけられるようにすることとしています。

1) 豊富な疾患を集学的に学ぶ

埼玉県の人口は、本院のある栃木県の人口の約3.5倍です。分娩数も3.5倍あり、さいたま市だけで栃木県に匹敵します。このため、多くの症例が当院で紹介されます。特に他科合併症を持つ患者が多く、他の診療科と協力して総合的な治療を行います。当センターは診療科毎の垣根も低く、他科医師からも多くのことを教えてもらえます。妊娠高血圧症候群の国内ガイドライン作成を担当した教授もおり、全身的な管理を学ぶことができます。産婦人科の知識だけでなく他科の知識も集学した、総合的な治療を習得し、実践できるようになります。

2) 超音波出生前診断技法を習得する

当センターは埼玉県の胎児超音波遠隔診断の4拠点のうちの1つとなっており、診断に困る症例の相談窓口となっています。このため、多くの胎児診断を経験することができます。超音波の基本から応用まで学ぶことができます。担当教授は多くの超音波専門医を養成しており、専門医取得後の資格取得にも有利です。

3) 腹腔鏡手術手技を習得する

担当教授は、国内で腹腔鏡が導入され始めた頃から、腹腔鏡手術を行なっています。これまでに多くの腹腔鏡手術の技術認定医を養成しており、研修希望者も数多くいます。今や腹腔鏡手術は婦人科手術手技の基本となりつつあり、これを研修医から学べる環境にあることは、大きなアドバンテージとなります。

一般プログラム 定員24名 (オーダーメイドのプログラムを各自の希望に応じて作成します。)

一般プログラムでは内科系（総合内科専門医、内科系診療科専門医などの志望者）、外科系（外科専門医志望者、外科系専門診療科志望者）、ならびに救急専門医志望者に最適なプログラムです。内科系・外科系・救急専門医志望者は本プログラムで応募できます。（下に記しているのは例です。）

本プログラムは弾力性あるプログラムも目指しています。上記1～4の志望コースに適合しないが一般プログラムで応募したいと希望している方にはコース未定者として（内科系・外科系をまだ決めていない人、麻酔科、放射線科等の希望者）本人のプランに沿って柔軟に対応することも可能です。



1. 内科系志望者

内科1 (3ヶ月)		内科2 (3ヶ月)		内科3 (2ヶ月)		救急 (3ヶ月)		産婦人科 (1ヶ月)
地域 (1ヶ月)	外科 (2ヶ月)	麻酔科 (2ヶ月)	小児科 (2ヶ月)	内科4 (2ヶ月)		オプション 1	オプション 2	オプション 3

本プログラムでは総合医と専門医のバランスのとれた内科医養成を目指しています。

当センターの内科系病棟は4つあります。6階東病棟（循環器科）、5階西病棟（消化器科・神経内科）、南館6階A病棟（血液科・腎臓科・リウマチ膠原病）、南館6階B病棟（総合診療科・内分泌代謝科・呼吸器科）。ローテーションは順不同です。診療科選択は内科系志望とすることによりすべての内科病棟を回ることができ、総合医養成プログラムとして最適です。

オプションでは精神科、臨床検査科、放射線科、CCU、ICU、各診療科などから自由選択で決めます。

2. 外科専門医志望者

外科 (3ヶ月)		内科1 (2ヶ月)	内科2 (2ヶ月)	内科3 (2ヶ月)		救急 (3ヶ月)		
地域 (1ヶ月)	麻酔科 (2ヶ月)	呼吸器外科 (2ヶ月)	心臓外科 (2ヶ月)	脳外科 (1ヶ月)	整形外科 (1ヶ月)	オプション 1	オプション 2	オプション 3

日本外科学会外科専門医志望者（一般・消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科）に最適なプログラムです。外科系診療科は4階東病棟（消化器外科・一般外科）、4階西病棟（呼吸器外科・消化器外科）、6階西病棟（心臓血管外科）があります。一般・消化器外科、心臓血管外科ともに、国内有数の手術症例数を誇り、周術期管理から基本手術手技まで十分なトレーニングが受けられます。

本コースを選択することで日本外科学会外科専門医取得に必要な症例を初期研修期間中に一部経験することができます。

3. 外科系専門診療科志望者

専門診療科 (3ヶ月)		内科1 (2ヶ月)	内科2 (2ヶ月)	内科3 (2ヶ月)	救急 (3ヶ月)			
地域 (1ヶ月)	麻酔科 (2ヶ月)	外科 (3ヶ月)		専門診療科 (3ヶ月)		オプション 1	オプション 2	オプション 3

外科系診療科の中でも眼科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・皮膚科・整形外科・脳神経外科・麻酔科のいずれかを志望する人に最適です。1年目と2年目に専門診療科（3ヶ月）各3ヶ月間研修します。研修開始時にどの専門診療科を選択するかを決めます。

4. 救急専門医志望者

内科1 (2ヶ月)		内科2 (2ヶ月)		内科3 (2ヶ月)		救急 (4ヶ月)		麻酔科 (3ヶ月)	
地域 (1ヶ月)	外科 (2ヶ月)	小児科 (1ヶ月)	整形外科 (1ヶ月)	脳外科 (1ヶ月)	ICU (2ヶ月)		オプション 1	オプション 2	オプション 3

救急医専門医を志望する人に最適です。当センター救急部は年間救急車搬送台数6,600台以上を有しており、多発外傷・重症熱傷を除けば、ほぼすべての疾患に対応しています。コースは、急性期総合診療を目標に、内科系・外科系全般と外傷の診断・管理が幅広く学べるように構成しています。院内ではICLS、ISLS、PTLS、JPTECの受講が可能です。



オプションで臨床力アップ

オプションは研修医の意見で選択できる科目です。放射線科、感染症科、生理機能検査、内視鏡、その他、皮膚科、眼科、耳鼻科、脳外科、整形外科、ICU、CCU等必修科目でない領域の研修ができます。臨床技術力増進のため利用できます。

小児科プログラム 定員2名

内科1 (2ヶ月)		内科2 (2ヶ月)		内科3 (2ヶ月)		救急 (3ヶ月)		麻酔科 (2ヶ月)		産婦人科 (1ヶ月)	
地域 (1ヶ月)	外科 (2ヶ月)			小児科 (4ヶ月)			ICU (1ヶ月)	オプション 1	オプション 2	オプション 3	オプション 4

小児科志望者に最適です。1年目、2年目のローテーションは順不同です。
産婦人科、麻酔科、外科、ICUは小児科研修に必修として研修することとしています。オプションはレジデントの希望により、検査手技の習得や他の診療科目の研修を目的として、比較的自由に選択することができます。



週間予定	月	8:15 モーニングカンファレンス	16:30 イブニングカンファレンス
	火	8:00 抄読会・モーニングカンファレンス	15:00 新生児回診 16:30 イブニングカンファレンス
	水	8:15 モーニングカンファレンス	15:00 教授回診 16:30 イブニングカンファレンス
	木	8:15 モーニングカンファレンス	16:30 イブニングカンファレンス
	金	8:00 モーニングカンファレンス	17:00 エコーカンファレンス

産婦人科プログラム 定員2名

産婦人科研修においては、プライマリ・ケア医として女性の生涯の健康管理に役立つ医師となるための基礎力をつけさせることを目標とします。次の各コースの選択が可能です。



内科1 (2ヶ月)		内科2 (2ヶ月)		内科3 (2ヶ月)		救急 (3ヶ月)		婦人科 (2ヶ月)		オプション 1		
地域 (1ヶ月)	麻酔科 (2ヶ月)			外科 (2ヶ月)		産科 (2ヶ月)		選択 1	選択 2	選択 3	オプション 2	オプション 3

選択1, 2, 3を以下のように振り分けます。
1.産婦人科・一般コース(選択をそれぞれ婦人科、産科、小児科に振り分ける)、2.産婦人科・婦人科内視鏡重点コース(婦人科を2ヶ月、小児科1ヶ月)、3.産婦人科・周産期医療重点コース(産科2ヶ月、小児科1ヶ月)、4.産婦人科・外科重点コース(婦人科、産科、外科)、5.産婦人科・総合・救急重点コース(内科2ヶ月、外科1ヶ月)、6.産婦人科・フレキシブルコース(外科1ヶ月、小児科2ヶ月)。
1.は産婦人科の専門医になることを目標とした一般的なコース、2.は産婦人科腫瘍学を中心に学べるコース、3.は周産期学を中心に学べるコース、4.は産婦人科・腹部外科を中心に修練可能なコース、5.は産婦人科・内科・救急科を中心に修練可能なコースです。それ以外にも6.のように産婦人科を中心に希望の科(皮膚科や耳鼻科眼科など)を選択することが可能なコースもあります。
産婦人科を中心に特化した修練を積むことも、全身管理を中心に幅広い科目の修練を積むことも可能です。

ホスピタリスト重視プログラム 定員2名

内科系志望者のたすき掛けプログラムで、研修協力病院のさいたま市民医療センター内科との連携プログラムです。連続性と、広がりのある研修環境を提供します。

総合診療科(3ヶ月) 自治医大さいたま医療センター		総合内科(6ヶ月) さいたま市民医療センター					救急(3ヶ月) さいたま市民医療センター		
小児科(3ヶ月) さいたま市民医療センター		地域 (1ヶ月)	外科(2ヶ月)	選択1 (1ヶ月)	選択2 (1ヶ月)	選択3 (1ヶ月)	オプション 1	オプション 2	オプション 3

従来のプログラムでは臨床研修現場は診療科別となっており、研修内容が細分化され、疾患と研修内容に偏りが見られました。その問題を克服し、細分化されない連続性のある臨床研修を確立し、総合内科医、家庭医を目指し、その上でサブスペシャリティを選択したい方に最適です。入院患者を診る総合医としてのホスピタリスト研修を目的としています。選択1,2ではリウマチ膠原病科、腎臓科、血液科、神経内科研修を推奨します。なお、さいたま市民医療センターは新専門医研修プログラムの連携病院に指定しています。

❖ 総合回診

毎週水曜日午後4時に開催される総合回診は、当センター開設以来継続されています。レジデントがケース・プレゼンテーションを行い、臨床推論を重視して参加者との双方向性の討論がなされます。1症例に30分をかけて、プロブレムリスト、鑑別診断、必要な検査を検討した後、Q&A方式の考察が発表されます。1年間で約100症例の主な内科疾患が網羅されています。

内容の一部は「m3.com」の「研修最前線」に連続掲載されています。

執筆陣は初期・後期研修医とその指導医達で、総合回診で発表された症例・症候をまとめました。臨床推論に最適、実践的な書です。巻末にはFujimoto教授による症例提示法と臨床推論についての特別寄稿があります。



❖ Fujimoto教授 (米国ワシントン州立大学内科名誉教授) によるケース・カンファレンス

英語で実施されるEBMを重視した臨床推論のケースカンファレンスです。1例に約1時間をかけて、プレゼンテーションの方法も学びます。参加者によるPeer Reviewがなされます。フジモト教授は1年に6回来日され2週間滞在されます。ケースカンファレンス以外にもレジデントとマンツーマンのClinical Clerkship (1時間程度) が適宜行われます。これらの課程を通してレジデントは受け持ち疾患のproblem listと鑑別診断アプローチへのプロセスを学びます。またフジモト教授来日中の総合回診(上記)は英語のプレゼンテーションで行われます。



❖ シミュレーション実習・ICLS

初期研修医はシミュレーションセンターにて点滴採血トレーナー、腰椎・硬膜外穿刺シミュレータ、直腸診シミュレータ、産科シミュレーショントレーナー、新生児挿管モデル、動脈穿刺シミュレータ、皮膚縫合、呼吸音聴診シミュレータなどを用いて実地臨床開始前トレーニングを行っています。これらのシミュレータの利用は医師、看護師、コメディカルスタッフの基本手技習得と医療の質の向上、安全管理に寄与しています。機器の貸出制度も可能であり、レジデントにとっても有意義な実習と高い評価を得ています。



レジデントのある1日のスケジュール



内科系

- 6:00 起床
- ↓
- 6:30 病院着
担当患者採血、患者状態確認、その他
看護師さんからのメッセージを確認するのも大事な仕事！
- ↓
- 8:00 モーニングカンファレンス
緊張するけど、しっかり準備して自信を持って望めば大丈夫！
- ↓
- 9:00 病棟業務（処置当番・患者診療・検査等）
病棟の患者さんの点滴ルート確保、血液培養などの処置を担当
週に約3回程度。採血やルートキープの良い練習
- ↓
- 12:00 職員食堂での昼食
- ↓
- 13:00 病棟業務
- ↓
- 14:00 病棟教授回診
- ↓
- 15:00 処方・検査オーダー・カルテ記載・
上級医とのディスカッションなど
- ↓
- 16:00 総合回診（毎週水曜日）
レジデントが担当した症例を、レジデント・シニアレジデント・教授陣などに鑑別疾患などを質問・ディスカッションしながら提示していく
- ↓
- 17:00 患者診察・カルテ記載・ディスカッション、
担当患者のサマリー記載、プレゼン準備、その他



小児科

- 6:30 起床
- ↓
- 7:30 病院着
患者状態確認、その他
夜間の担当患者の状態を把握することが重要！
- ↓
- 8:00 勉強会（火曜日、金曜日）
- ↓
- 8:15 モーニングカンファレンス
新患者のプレゼンテーション、当直医からの申し送り、その他
- ↓
- 9:00 病棟回診（担当患者の診察、採血等の処置）
- ↓
- 11:00 ドクター・ナースカンファレンス
診察・検査結果を確認し、治療方針・退院方針等を話し合う。
個々の患者が抱える問題点をスタッフ全員で共有する。
- ↓
- 12:00 職員食堂で昼食
- ↓
- 13:00 エコー検査
専門医の指導下に、研修医自らが行う。
- ↓
- 14:00 新患患者の診察・処置・家族への説明
（毎週水曜日は15時から教授回診）
- ↓
- 16:30 イブニングカンファレンス
新患者のプレゼンテーション、当直医への申し送り、その他
入院患者の状態を全員で確認し、検査や治療方針を話し合う。
- ↓
- 17:30 患者診察、担当患者の家族へ病状説明、その他

外科系

- 6:00 起床、
支度、朝食
- ↓
- 6:30 出発
- ↓
- 6:45 採血、カルテcheck
- ↓
- 7:00 チーム回診
- ↓
- 7:30 術前カンファレンス（月・水・金）
科長回診（火・木）
- ↓
- 8:30 手術
2件ある日は、手術と手術の合間に昼食をとる。
（オペ間隔は60分）
- ↓
- 手術終了後 ～病棟業務～
- ↓
- 18:00 回診
病棟業務、患者さんや家族への説明など



産婦人科

- 7:00 起床
- ↓
- 7:40 病院到着
- ↓
- 8:00 カンファレンス（月木は入院患者症例提示、火曜日は病理検討会）
- ↓
- 8:30 病棟回診（月曜日は教授回診）
- ↓
- 9:00 病棟処置（入院患者診察・分娩患者方針決定・自然流産処置・羊水検査など）
- ↓
- 12:00 昼食
- ↓
- 12:30 手術（産科は帝王切開や妊娠中卵巣のう腫摘出術、子宮頸管縫縮術など）
- ↓
- 14:30 新入院患者診察・手術説明等・分娩立ち会い
- ↓
- 15:30 手術（婦人科は悪性腫瘍手術や良性腫瘍に対する腹腔鏡下手術）
- ↓
- 17:00 病棟回診
- ↓
- 17:30 カンファレンス（月は婦人科症例方針決定、水は小児科との合同検討会産科症例提示）



レジデントからのメッセージ



内科系
ジュニアレジデント(2年目)(平成28年入職)
小林 千夏先生



私が当センターで2年間研修し感じた、当センターの良いところをご紹介します。
・指導医に恵まれている…私は研修医として約1年半、内科系・外科系問わず様々な診療科をローテートしましたが、指導医の先生方は非常に優秀だと感じました。時には厳しく、時には優しく丁寧に指導して頂き、それぞれの診療科での数ヶ月は非常に貴重なものでした。
・学閥がない…当センターに勤務している医師は、どの診療科においても出身大学・研修病院が本当に様々です。私自身も当センターに数人しかいない大学の出身ですが、大学名で区別されたことは一度もありません。むしろ、色々な大学や研修病院の話聞く機会が多く、見聞を広めることが可能となっています。



外科系
ジュニアレジデント(2年目)(平成28年入職)
遠藤 成晃先生



この冊子をご覧になる方にとって、当センターはどのように映っているのでしょうか。私自身は地元さいたまにおける中核病院の1つというのが最も強い印象で、循環器系に強い、2016年4月より救命救急センターを立ち上げ3次救急を開始した、選択で自治医科大学病院の科もローテーションすることができる等、検索したらすぐわかるようなことも、実際に研修するまでは真の意味ではわからないままでした。何を伝えたいかと言うと興味を持っていただけたのなら、色々調べるよりまず見学に来ていただきたいということです。実際に研修医が働いている姿や雰囲気を感じなければ当センターの魅力はわかりません。ではその魅力とは何なのか。それは一言で“距離の近さ”とまとめられる



外科系
ジュニアレジデント(2年目)(平成28年入職)
降旗 宏先生



当センターでは三次救急対応になったことによって、研修医でも高度な救急医療に携わることができ、academicからcommonに至るまで様々な疾患を経験することができるという話はもう一人のレジデントの先生がしてくれると考え、私は自分が研修で大切だったと感じた事に関して紹介させてい頂きたいと思いません。
私自身、当センターを志望した理由は、興味のある科の手術件数が多いといった単純なものでしたので、ローテーションで他の科は重要視していませんでした。しかし、研修が始まってみると、内科・外科に関わらず、複雑な症例は自科だけで完結できず、他科の先生方の相談する必要性が多々出てきました。この相談をどれだけスムーズに行うかが、複雑症例の治療のポイントに

・手技の取得機会が豊富…研修医が取得すべき手技はいくつかあると思います。例えば、末梢静脈ルートの確保や、動脈穿刺、中心静脈カテーテル留置など。当センターでは研修医1年目の4月からそれらの手技を行う機会に恵まれており、先輩や指導医が丁寧に教えてくれます。不器用で手技に自身がない方でも、研修2年間を終える頃にはきっと上達していることと思います。
・病院が綺麗…研修医は当直やカンファレンスの準備のため、しばしば1日のほとんどを病院で過ごします。当センターは平成元年に建てられているため、比較的建物が新しいです。私が学生の時に最初に当センターを見学して最初に抱いた印象がそれでした。過ごす環境は想像以上に大切で、職場が綺麗だとそれだけで気持ちが良いものです。
・研修医寮が綺麗…研修医生活が始まり、特に最初の1年間は病院と寮を行き来する日々でした。研修医寮は1Kとそれほど広くありませんが、一人で暮らす分には十分であり、またとても綺麗です。病院からは徒歩7分、自転車で3分ほどの距離にあります。1年目、2年目の研修医のほとんどがそこで暮らしており、時には同期や先輩・後輩とそれぞれの家で飲み明かすこともあります。
少しでも当センターの魅力が伝われば幸いです。是非一度、当センターに見学いらしてみてください。

と思います。都心へのアクセスがいい大宮駅はバスで10分程度とまずまずの近さ、研修医寮に至っては起きてから病棟へ着くまで頑張れば5分です。研修医の数も20人台と、全員の顔が覚えられない程のマンモス集団ではありません。また、向上心の塊のような人たちが全国から集まってきているため、お互いに支え合う姿勢が自然と生まれ、お互いの距離も近くなります。研修医時代をハングリーに過ごしたい人にはうってつけです。上級医(1つ上の研修医)も教えたがり、面倒見の良い方々が多く、それ故に叱責されたりもしますが、それほど研修医に対してアツい人たちが多数います。そして、大事なコメディカルともパソコン上(カルテ上)でのやり取りだけでなく、一緒に勉強会を開催したり、患者さんに対してどのような向き合い方がよいのかを活発に議論することもあり、非常に距離が近いです。
この“距離の近さ”は当センターにおいて最も重要なウェイトを占めていると思います。そしてそれを知るには現場で感じる他にないと思います。是非一度見学に来てみてください、辛くも楽しい研修医時代、医者的一步目を踏み出すにふさわしい病院です。

なるのではないかと感じるようになりました。
研修を1年終えて、私が得たものは多彩な症例だけではなく、困った時に相談できる病院内の先生方でした。自分で勉強し、知識を蓄え診断、治療を行う事はとても重要なことですが、相談できるネットワークがあることも今後初期研修が明けて、専門性が高くなる中、大きな武器になると思います。将来的に専門性の高い医療をやっていきたくと考えている医学生さんは、研修病院を決める際にぜひともその病院が他科同士で相談しやすい環境であるかを見るべきだと思います。自治医科大学の性質上、先生方の出身大学は様々であることが、相談しやすい環境を作り上げている要素の一つであると感じます。初期研修の最初の頃でも、こういった連携が出来るようになるだけで、チームでの戦力になりますので、当センターで研修をすることになったらぜひコンサルトの得意な研修医になってください。相談する機会が多いと、一つの症例から複合的により多くのことが学べることも、垣根の低さの利点であると思います。
外科系レジデントのメッセージとのことでしたが、蛇足的な話しを失礼致しました。是非見学に来て、病院の雰囲気を自分で感じてみてください。

旭川医科大学	筑波大学	帝京大学	聖マリアンナ医科大学	信州大学	鳥取大学	産業医科大学
札幌医科大学	獨協医科大学	東京大学	東海大学	岐阜大学	島根大学	久留米大学
北海道大学	自治医科大学	東京医科大学	新潟大学	浜松医科大学	川崎医科大学	佐賀大学
弘前大学	群馬大学	東京慈恵会医科大学	富山大学	愛知医科大学	山口大学	長崎大学
秋田大学	埼玉医科大学	東京女子医科大学	金沢大学	三重大学	徳島大学	熊本大学
東北大学	千葉大学	日本大学	金沢医科大学	滋賀医科大学	香川大学	大分大学
山形大学	杏林大学	日本医科大学	福井大学	京都府立医科大学	高知大学	宮崎大学
福島県立医科大学	昭和大学	北里大学	山梨大学	和歌山県立医科大学	福岡大学	琉球大学



小児科プログラム 平成29年3月修了
現シニアレジデント(1年目)(平成27年入職)

大石 高稔先生



他の多くの病院と、当センターの大きな違いはスタッフの先生も研修医も出身大学に偏りが無いことだと思います。

出身大学の偏りがなく、全員が勉強熱心でやる気に満ちた同期ばかりが集まっているので、互いに切磋琢磨し合う環境が自然と出来上がっています。私は九州の大学出身ですが、このような環境のもとで特に苦労することなく研修生活を送ることができています。

スタッフの先生方も当院の研修医上りの方が多く、頼りになるだけでなく日常診療のなかで多くのことをご指導して下さいます。どの科でもやる気さえあればどんな手技でも経験させてもらえるため、自分次第

で医師としてのスキルはどこまででも高めることができます。

また小児プログラムの特徴としては、このプログラムでは当院一般病棟2か月、NICU1か月、さいたま市民医療センターを1か月ローテートします。

一般病棟では疾患の別に捉われず、あらゆる患者さんを診ることができ、小児科の先生はどなたも優しく教育熱心で、子どもの細い血管への点滴の入れ方からエコーの当て方、腰椎穿刺などの手技を丁寧に教えてくださいます。NICUでは全身管理を学べ、commonな症例は市中病院であるさいたま市民医療センターで学ぶことができるようになっています。ICUもローテートするため、小児・成人のどちらも病態生理を網羅的に習得できるようになっております。

小児科はサブスペシャリティを決めるまでは、呼吸器・消化器・神経・内分泌・循環器・血液などあらゆる分野の疾患を診る必要があります。当院での研修はそれらの基礎を学ぶのに非常に適した病院だと思います。当センターの魅力は活字だけでは伝えきれません。是非見学にいらしてください。一緒に働ける日を楽しみにしています。



産婦人科プログラム
ジュニアレジデント(2年目)(平成28年入職)

木村あずさ先生



私は実家が産婦人科ということもあり、医学部を目指した時から産婦人科志望でした。そのため当院の産婦人科コースを選択するのはなんの迷いもありませんでした。ただ当院の産婦人科コースは多数のコースの中から自分に合ったコースを選択できるのが最大のメリットであり、産婦人科に縛られずに様々な科を回ることができます。他科のスペシャリスト達の考え方や疾患を見ておくことは今後の医者人生の中で非常に有益な経験となり何かを判断するときの助けとなります。また、当院では研修医の当直は救急当直となっているので、当直の際には内科外科の全ての知識が必要とされるため、非常に多くのことを学ぶ事ができ、年間を通して様々な疾患や緊急時の対応に直面することができます。

研修医の間はいろんな科をローテートすることを考えると、自分の志望の科以外でどこに魅力があるのかという点は非常に重要な事であると私は考えており、当院での研修は実に医者が身につく場所だと感じています。

それを踏まえた上で当院の産婦人科コースでは最低でも4ヵ月産婦人科(産科2ヵ月、婦人科3ヵ月)を回ることができ、加えて選択3ヵ月間、オプション3ヵ月間を組み合わせれば更に長い期間、産婦人科を回ることも可能です。婦人科では腹腔鏡の高い水準での手術を研修医のうちから見ることができ、産科では大学病院としては経膈分娩の機会が多く、研修医の間としては十分な内容のものを学べると思います。

埼玉県は人口に対しての医者の数が少なく深刻な医者不足、医療過疎が懸念されている県でもあります。その分、埼玉県の大学病院というのはたくさんの症例に出会い、研修医のうちから医者として働く実感を強く持てる場だと感じています。

感じ方は人それぞれだと思いますが、是非一度当院に見学に来てご自身で感じ取ってください。一緒に働ける日を楽しみにしています。



ホスピタリスト重視プログラム
ジュニアレジデント(2年目)(平成28年入職)

瀬戸那由太先生



大病院と市中病院をどちらも経験できるたすきがけ研修、それが当プログラムです。下記のような方におすすめです。

- ・将来どのような診療科に進みどのように働か模索中の方
- ・専門は決めているが初期研修中に幅広くcommon diseasesの勉強をしておきたい方
- ・大学での研修もいけれど市中病院も気になっているという方
- ・なんとなく眺めているそこのあなた！

自治医大さいたま医療センターでは大学病院ならではの専門に特化した診療科と3次救急、英語カンファレンスなどを研修し、さいたま市民医療センターでは市中病院ならではのcommonな内科・小児科疾患とその救急対応などを中心に学びます。もちろんcommonの中にも重症疾患や稀な疾患が少なからず隠れており、必要に応じて自治さい

たまなどの後方病院に送るといことも経験させていただきました。

皆さんは2年間の初期臨床研修に何を望みますか。私は専門的研修や屋根瓦式の教育体制などの観点から自治さいたまを選択した一方、症例豊富な300床規模の市中病院でのactiveな研修も捨てがたかったことから当プログラムを希望しました。1年目の途中での病院の異動はいささか不安でしたが、市民医療センターの内科上級医は自治さいたまからの派遣医師も多く、問題ありませんでした。同院の内科は総合診療と専門診療の両立を目指した診療体制となっており、毎日行なわれる内科系医師全員集合のモーニングカンファレンスでは、研修医が各科の専門医から直接フィードバックをもらえる貴重な勉強の機会となっています。

実際に勤務して思うのは初期研修中に立場の異なる2病院で研修できることは大変貴重であるということ。より多様な疾患、重症度、患者層を経験できるとともに、1施設に留まった場合ではわからないような新たな発見ができるこのプログラムは本当に魅力的です。環境が変わるのは大変ではありますが、多忙な研修医であるからこそ意図的に視点を変えるチャンスを作り、大病院と市中病院のイイトコドリをする贅沢な研修をしてみませんか。一緒に働ける日を楽しみにしております。



当センターを基幹病院とする専門医研修プログラム作成状況

専門領域	プログラム名称	連携施設名
内科	自治医科大学附属さいたま医療センター 内科専門医研修プログラム	済生会川口総合病院、川口市立医療センター、 春日部市立医療センター、さいたま市民医療センター、 JCHO埼玉メディカルセンター、JCHOさいたま北部医療センター、 さいたま赤十字病院、彩の国東大宮メディカルセンター、 博仁会共済病院、深谷赤十字病院、秩父市立病院、小鹿野中央病院、 自治医科大学附属病院、練馬光が丘病院、南魚沼市民病院、 南魚沼市立ゆきぐに大和病院
小児科	自治医科大学附属さいたま医療センター 小児科専門医研修プログラム	さいたま赤十字病院、自治医科大学附属病院
外科	自治医科大学附属さいたま医療センター 外科専門研修プログラム	春日部中央総合病院、さいたま市立病院、さいたま赤十字病院、 彩の国東大宮メディカルセンター、秩父市立病院、 仙台市医療センター（仙台オープン病院）、 JCHO東京新宿メディカルセンター、かみいち総合病院、 練馬光が丘病院、東京北医療センター、東北大学病院、 横浜市立みなと赤十字病院、横須賀市立うわまち病院、 白河厚生総合病院、高萩協同病院、菅間記念病院、 自治医科大学附属病院、埼玉県中央病院、 JCHOさいたま北部医療センター、博仁会共済病院
皮膚科	自治医科大学附属さいたま医療センター 皮膚科専門研修プログラム	さいたま赤十字病院、JCHOさいたま北部医療センター、 春日部中央総合病院
産婦人科	自治医科大学附属さいたま医療センター 産婦人科専門研修プログラム	埼玉協同病院、かしわざき産婦人科、自治医科大学附属病院
眼科	自治医科大学附属さいたま医療センター 眼科専門研修プログラム	自治医科大学附属病院、JCHOさいたま北部医療センター
放射線科	自治医科大学附属さいたま医療センター 放射線科専門研修プログラム	獨協医科大学越谷病院、彩の国東大宮メディカルセンター、 自治医科大学附属病院
麻酔科	自治医科大学附属さいたま医療センター 麻酔科専門研修プログラム	埼玉県立小児医療センター、さいたま赤十字病院、 北里大学メディカルセンター、横須賀市立うわまち病院、 昭和大学附属病院、自治医科大学附属病院、 埼玉医科大学総合医療センター
病理	地域総合病理医育成を目指した自治医科大学 附属さいたま医療センター病理専門 研修プログラム	埼玉協同病院、さいたま赤十字病院、那須赤十字病院、 水戸協同病院、焼津市立総合病院
救急科	自治医科大学附属さいたま医療センター 救急科専門研修プログラム	さいたま市民医療センター、さいたま赤十字病院、 彩の国東大宮メディカルセンター、上尾中央総合病院、 川越救急クリニック、埼玉医科大学総合医療センター、 日本大学医学部附属板橋病院、 秩父市立病院（関連施設）
総合診療	自治医科大学附属さいたま医療センター 総合診療専門研修プログラム	済生会川口総合病院、さいたま市民医療センター、 JCHOさいたま北部医療センター、 彩の国東大宮メディカルセンター、博仁会共済病院、 明医研ハーモニークリニック、深谷赤十字病院、秩父市立病院、 小鹿野中央病院、南魚沼市民病院、南魚沼市立ゆきぐに大和病院



大学院生からのメッセージ



内科系
博士課程 2年目（平成28年入学）
福島 史人先生



私は将来、地域における救急医療に従事し、医療そのものだけでなく medical control (MC) の発展に貢献したいと考えています。そのために、私は臨床と研究を両立できる社会人大学院生として修学する事により、救急医療に関する実践的な知識や幅広い能力を身に付けられると考え、大学院への進学を決意しました。私は当院で初期臨床研修を修了し、当院の救急科に入局すると同時に大学院へ進学し、今年で2年目になります。

MCに関して特に考え始めたのは、地元である埼玉県にある当院で初期臨床研修医として従事するようになってからです。私はそれまで、救急医療における患者さんの予後は病院内の医療従事者の技量に左右されることが大きいと考えていました。しかし、救急医療に関する事を学ぶにつれて、また救急救命士の方々とお話をする機会を持った事で、必ずしもそうではなくMCを安定化、充実させる事で、例えば防ぎ得た外傷死等も減少させる事が可能である事に気が付きました。

しかし、MC体制を充実させるためには様々な面からアプローチする必要があり、問題点についてデータを集め解析をする等の研究に関する能力が現在の私には不足している事を痛感しました。そのため、私には研究について大学院で十分に学習と経験を重ね、救急医療に関する専門知識を身に付ける必要があると感じました。

そんな折、私は大学院の説明会やパンフレット、また先輩方のお話を聞き、前述した事について学ぶために大学院へ進学しました。私は、当院救急科の守谷俊教授にコンタクトをとり、社会人大学院であれば臨床と研究を両立させ、救急医療について十分に学習でき、MCの地域社会医学的なアプローチ方法を身に付けられると感じました。今後、地域の救急医療におけるMC体制が充実するように、そして私の研究が救急医療分野の発展に貢献できるよう臨床に研究に励んで行きたいと思います。大学院への進学を考えている方は、是非共に学んで行けたらと思います。



内科系
博士課程 2年目（平成28年入学）
増田麻里亜先生



私は当院での初期研修を終えた後、耳鼻咽喉科の医局に入局し、2年の臨床を経て大学院に入学しました。当初の自分のキャリアプランに大学院はありませんでしたが、先輩の大学院生のすすめで、そんな道もあるのだと興味を持ったのがきっかけです。私の話も皆さんにとって何らかのきっかけになれば嬉しいと思います。

大学院に入る事を考えたとき、まず心配に思うのは、大学院に入ることで手術の機会が減るなど、臨床の経験にブランクができてしまうのではないかとという事ではないでしょうか。私も、入学前に同じ心配をしました。しかし、すでに在学している大学院生達の実際の生活を見ることで、その心配は払拭できました。

現在、私は一般大学院生として在籍していますが、講義に出たり、動物実験を行ったりするほかに、外来や病棟業務も並列でさせてもらい、手術の件数についても同期のレジデントと同等の経験ができています。また、この病院には社会人大学院生も多く在籍しており、通常と変わらない仕事をこなしながら、夕方や休日に研究をし、講義などはインターネットを通じて受講するという事も可能です。この病院では敷地内に研究棟があるので、臨床の場と行き来がしやすく、空いた時間を使っての研究が可能になっています。また、この研究室だけでは難しい研究も、栃木の本学の研究室にサポートしてもらいながら進めることもできます。

研究をするという事は、自ら臨床などで疑問に思ったことを、どうすれば解決できるか方法を考え、それを実践してみるという事です。これを最初からすべて自分でやらなくては考えると、そんなの無理と諦めてしまう人がほとんどでしょう。しかし実際は、先輩大学院生だったり、指導教官だったり、研究の仕方を一から教えてくれる人達があります。私の場合も入学直後は先輩の実験のお手伝いから始めて、無理なく自分の実験について考えられるところまで来ました。今は動物を使った実験をしていますが、結果を求めることがこんなに楽しいとは。私の経験談は今も現在進行形で進んでいます。

初期研修が終わった後のキャリアを考えたときにも、当院での研修は有意義と保証します！



募 集 要 項

募集人員

- 一般プログラム 24名 ○小児科プログラム 2名 ○産婦人科プログラム 2名
- ホスピタリスト重視プログラム 2名

応募資格

ジュニアレジデント（医療法第16条の2第1項に規定する臨床研修）

- ・平成30年3月に大学医学部または医科大学を卒業見込みの者
- ・平成30年3月以前に大学医学部または医科大学を卒業し、平成30年に医師免許を取得見込みの者

以上の条件を満たし、マッチングシステムに参加登録する者

試験日程

平成29年8月17日(木)・8月18日(金)・8月21日(月)
平成29年8月23日(水)・8月24日(木)

受付期間

平成29年7月3日(月)～平成29年8月9日(水)（当日必着）

方 法

面接試験

出願書類等

下記書類を一括して封筒に入れ郵送してください。

- (1) 医師臨床研修申込書（学歴は高校卒業時から記入）、写真貼付
（当センター所定の書式による・ホームページからダウンロード可能）
連絡先については日中電話連絡のできる所をお書きください。
- (2) 卒業見込証明書

送 付 先

※〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847

自治医科大学附属さいたま医療センター

卒後臨床研修室 まで

TEL.048-648-5382（直通）

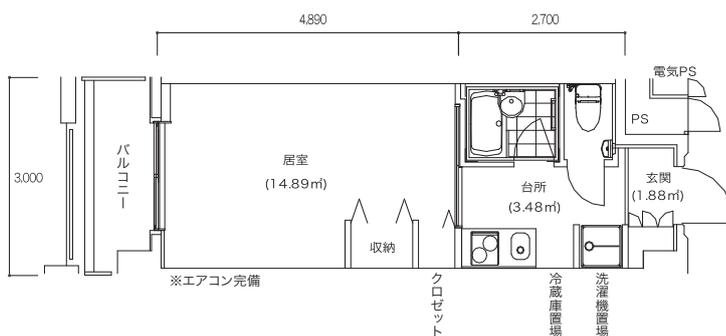
mail : rinshoukenshu2@omiya.jichi.ac.jp

身分及び待遇

- | | |
|---------|--|
| ① 身分 | さいたま医療センター職員 |
| ② 報酬 | ジュニア1（卒後1年目） 年額 400万円（賞与含む・当直料含む）
ジュニア2（卒後2年目） 年額 470万円（賞与含む・当直料含む） |
| ③ 当直料 | ジュニア1（卒後1年目） 1万円
ジュニア2（卒後2年目） 2万円 |
| ④ 社会保険 | 日本私立学校振興・共済事業団 |
| ⑤ 宿舎 | 教職員住宅完備（下の写真参照）※世帯用もあります。 |
| ⑥ 福利厚生等 | 日光研修所、北軽井沢山荘、院内保育所、
フィットネスクラブ（法人会員）、食事料補助 3,500円/月、
学会旅費支給（上限あり）、院内表彰制度（優秀レジデント賞）あり、
勤務医師賠償責任保険（補償額2億円）に加入。
※初期研修期間はセンターにて保険料を負担します。 |



ジュニアレジデント用宿舎（単身者用）



ジュニアレジデント用宿舎 平面図（単身者用）

研修内容説明会

※事前に参加申し込みをお願いします。

第1回 平成29年7月29日(土)

第2回 平成29年8月5日(土)

タイムスケジュール

13:00 各プログラム（各科）
15:00 コーヒーブレイク
15:30 病院施設見学
16:00 解散

実習生・見学生

実習生・見学生を随時受け入れしておりますので、関心のある方はご連絡ください。
※連絡先については前ページ参照

センター内の紹介



図書室



医師室



CT室



心カテ室



オペ室



管理・研究棟



ホスピタルアート



南館

本館

外来ゾーン

センター内には職員食堂をはじめ下記のレストランがあります。



職員食堂 (本館2階)



みぬま (外来棟)



プリムローズ (南館7階)



ファミリーマート



福利厚生施設



エネルギー棟

外来棟



日光研修所



北軽井沢山荘



院内保育所



センターの概要

センター長 百村伸一
副センター長 小山信一郎
遠山信幸
讚井將満
力山敏樹
石川治美



<平成29年度新ジュニアレジデント>

■ **病床数** 618床

■ **患者数等** (平成28年度) 外来 1日平均 1,326人
入院 1日平均 499人
手術件数 7,176件
救急車年間搬送数 8,243件

■ **職員数** (平成29年4月1日現在)

医師 331人
(内レジデント179人)
看護師 838人
医療技術職員 224人
事務職員・その他 115人
合計 1,508人

■ **診療科**

内科・外科・循環器内科・放射線科・精神科・
小児科・心臓血管外科・脳神経外科・整形外科・
泌尿器科・耳鼻咽喉科・眼科・産婦人科・皮膚科・
リハビリテーション科・麻酔科・歯科口腔外科・
病理診断科・救急科

ACCESS



◎ **国際興業バス** ●大宮駅東口から約1.8km (約10分)

4番乗場 (大11) 自治医大医療センター行き → 「自治医大医療センター」下車
※平日朝7:02~17:48まで約12分毎に往復運転

7番乗場 (大04-2) 大谷県営住宅行き (新道経由) → 「自治医大医療センター」下車

7番乗場 (大02-2) 浦和学院高校行き (新道経由) → 「自治医大医療センター入口」下車

自治医科大学附属さいたま医療センター

〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847 TEL.048-648-5382 (直通)

<http://www.jichi.ac.jp/center/sotsugo/index.html>